2023年05月01日 中日新聞 朝刊 21頁

まい そなえ・まいさん　**ハム** ハム助　**佐** 佐藤さん　**石** 石川さん

第9回 備える ない!?

「備えない防災」も 知って

日常のモノ 非常時に活用

「フェーズフリー」

防災記者のそなえ・まいです。みんな、「フェーズフリー」って言葉を知ってる？　「備えない防災」とも言われていて、注目されているよ。どんな考え方なのか、さっそくハム助と取材してみよう！

佐藤唯行さん

まい まず、一般社団法人・フェーズフリー協会（東京）代表理事の佐藤唯行さん（五二）に聞きました。フェーズって「局面」や「段階」という意味ですよね。それをフリーにするって、なくすことですか？

佐 日常と非常時の区切りをなくすという考え方です。みなさん、備えることや防災が大事だと分かっているけれど、普段から取り組むのは難しいですよね。日々、やらなきゃいけないことがたくさんあって、日常で非常時のことを想像するのも難しい。

そこで、日常で使っている身の回りのモノやサービスが非常時にも役立って、生活や命を守れればいいなと。備えられないことを前提にする、というのが出発点。「いつも」を「もしも」に、という発想です。

目盛りがあって計量もできる紙コップ

目盛り付き紙コップ　→　避難所で授乳や炊飯

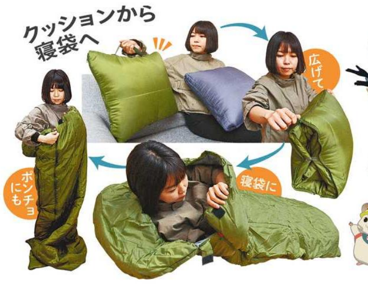
ハム 具体的にはどんなモノがあるだハム？

佐 例えば、この紙コップには模様や色の境目に目盛りの線が入っています。計量カップにもなって、避難所では授乳や炊飯のときに役立ちます。協会でフェーズフリーの認証をしている商品やサービスはいま七十ほどあります。

まい なぜこの考え方を普及させようと思ったんですか？

佐 大学で災害軽減工学を学び、北海道南西沖地震（一九九三年）で被災した奥尻島や、東日本大震災（二〇一一年）の被災地を訪れました。両方とも同じ光景が広がっていました。津波で街や集落がなくなり、がれきと更地になってしまう。ずっと防災に取り組んできたのに「なぜこんな景色が繰り返されるのか」と無力さを感じました。

「備えよう」という提案は必要だけど、それだけでは解決できない。そう思い、一四年にフェーズフリーを提唱し、一八年に協会を設立しました。産業界からの参加だけでなく、教育の分野や行政の施策にも広がっています。



まい どんなモノがあるのか、もっと知りたいな。健康や美容のグッズを扱う通販会社「ドリーム」（名古屋市東区）社員の石川ももさん（三〇）は、何を開発したんですか？

石 このクッション型多機能寝袋です。普段は縦横四十五㌢のソファクッションですが、災害時は寝袋に変身します。中に枕や貴重品ポケットを付けました。フードは大型で顔を隠せ、避難所では女性が寝ていると分からないような色にもしています。足部分のチャックを開ければポンチョになり、着替えたり授乳したりできます。

ハム 僕も見つけた。オフィス用品のアスクル（東京）には、水を運ぶバケツにもなる超撥水バッグや、ベッドになる強化段ボールと、いろんな商品があるだハム。

まい フェーズフリーの考え方はまちづくりにも生かされているね。東京都豊島区の「としまみどりの防災公園」には防火樹林帯があって、憩いの木々が延焼の遮断になるよ。六千六百平方㍍の広場は災害時、物資の集積場やヘリポートにも使われるそうです。

水を運べてバケツにもなる超撥水バッグ

撥水バッグをバケツに ■ 広場がヘリポート

愛媛県今治市のごみ処理施設「バリクリーン」には体育館や会議室があって、普段は市民が集うけれど、災害時は避難所として三百二十人が一週間過ごせる食料や設備も。

ハム 徳島県鳴門市では学校教育に取り入れているぞ。算数の時間に津波の速さを計算して、百㍍を十秒で進む恐ろしさを子どもたちに想像してもらっているだハム。

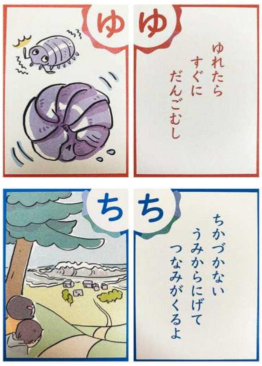
災害時も活用される「としまみどりの防災公園」＝東京都豊島区提供

かるたで防災 新コーナー

「みんなをまもる」遊んで学んで

「子連れ防災研究者」を自任する蛭川理紗さん（三七）＝写真＝らが作った防災かるた「みんなをまもるかるた」を隔月で紹介します。防災かるたは、幼い子どもにも伝えやすい「いきものかるた」と「にんげんかるた」があります。災害時に取るべき行動や注意点を、遊びながら学ぶことができます。

第一回は、地震が起きたときよく言われるあの大切な行動を紹介します。


ゆ
ゆ
ゆれたら
すぐに
だんごむし
ち
ち
ちかづかない
うみからにげて
つなみがくるよ

【いきものかるた】

①「ゆ」　ゆれたら　すぐに　だんごむし

蛭川さん ダンゴムシはびっくりすると丸まって自分の身を守るよ。みんなも地震が来たらダンゴムシポーズで頭を守ろう。

②「つ」　つなみかも　ちーたーくらい　すばやくにげる

蛭川さん ぐらっと揺れたら津波が来るかも。揺れがおさまったらすぐにチーターみたいに遠く、高いところへ逃げよう。

【にんげんかるた】

③「せ」　せなかをまるく　りょうてであたまを　まもってしゃがもう

蛭川さん 背中を丸くして両手で頭を守ってしゃがむ。机があればその下に。かばん、クッションなどがあれば頭を覆って守ろう。

④「ち」　ちかづかない　うみからにげて　つなみがくるよ

蛭川さん 海の近くにいるときに地震が来たら、揺れがおさまってからすぐに高い所へ逃げよう。津波が襲ってくるよ。

蛭川さんは中部電力に勤め、二〇一九年から昨年まで名古屋大減災連携研究センターに出向。センターで仲間と「パパママ防災研究会」を結成し、防災や交通安全をテーマにしたかるたを作りました。

試作段階で販売はしていませんが、「まずは防災教育という意識を持たず、子どもと一緒に楽しんでほしいと思いました。遊ぶ中で、忙しい子育て世代が防災について考えるきっかけになれば」と話しています。試作品の問い合わせは蛭川さん＝hiru@nagoya-u.jp＝へ。

みんなをまもるかるた

蛭川さんたちが作った「みんなをまもるかるた」

読み句とイラスト募集

あなたが考える防災かるたの読み句とイラストを募集します。読み句だけでも可。住所、名前、年齢、電話番号やメールなどの連絡先を明記し、「〒460 8511 名古屋市中区三の丸1の6の1、中日新聞社会部防災担当」へ。ファクスは052(201)4331、メールはshakai@chunichi.co.jp

---

中日プラスに動画
次回は来月5日予定

そなえ・まいさんとハム助は名古屋市のNPO法人・防災自助普及委員会が企画、名古屋工学院専門学校が制作した防災キャラクター。まいさんらがクッション型多機能寝袋の使い方を取材した動画を、定期購読者向けインターネットサービス「中日新聞プラス」（登録無料、QRコード）で見ることができます。次回の「備える」は六月五日の予定です。

文・横井武昭

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています